

平成24年度  
北方四島交流教育関係者・青少年訪問事業報告



射水市立小杉中学校  
教諭 田畑 悟

国後島入域の様子



船上から見た古釜布の様子



## 「友好の家」にて



## 古釜布の町の様子



## 南クリル消防署①



## 南クリル消防署②



## メンデレエフ空港



## 南クリル地区図書館



通信にかんするインフラも整備されていないため、図書館のインターネットは子どもたちがよく利用しているとのこと。

日本の文化も紹介するコーナーがあり、芥川龍之介や樋口一葉なども置かれていた。

## 古釜布中等学校



日本本土の小学校と同様に、正しい字の書き順などを示された掲示物が教室にあった。

印象的だったのは、戦闘機の模型が教室の後ろに飾られていたこと。そして、国旗や校章とともに、プーチン大統領とメドベージェフ首相の顔写真も各教室に飾られていたこと。

## 成績優秀者の掲示



・成績優秀者は顔写真付きで飾られる。

・一部の子の目のところに穴が開いていた (いたずら) 校長代理に「いじめられているのでは？」と質問したが、「誰に対してもやる子はいらると思う。いじめられているということはない」とはっきり言われた。

## ICTの設備



- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・コンピュータ室



各教室に、プロジェクターとスクリーンが備えつけられていた。

また、コンピュータ室もあり、かなり遅れている、という感じはしなかった。

## ベーロチカ幼稚園



絵のテーマは、「ふるさとを  
あらわす絵」。  
サハリンや北方四島を含め  
た地図が描かれた絵が印象  
的だった。



## 現地の教員との意見交換会



## ホームビジット



## 島の人々



アレクサンドル司祭

古釜布中等学校職員の方



## 墓参

東湊日本人墓地



古釜布日本人墓地

墓地については、草が生い茂っているなか、きれいに刈られ、貝殻によって、墓が装飾されていた。

クリル日本センターのロシア人職員の方々が手入れをしてくださっているとのこと。

### 生徒の感想その1

ロシア人は、ダイナミックで温かい心をもっている。

#### 私たちがやるべきことと考えること

- ロシア人の良さを発見すること
- 北方領土問題について、一人ひとりが興味・関心を持ち、正しい知識をもつ

→正しい主張をすることができる。

### 生徒の感想その2

- 北方領土は少しずつだが、開発が進んでいた。  
→このまま進むとどうなるのか心配。
- 北方領土が近い存在であると感じた。  
→日本と同じような自然が見られたこと  
現地のロシアの人の気持ちが理解できたこと

### 生徒からの提案

#### 北方領土問題の問題点

- 国民全体の問題意識がまだまだ低いのでは？
- メディア等でもっと取り上げて、もっとたくさんの人に意識をもってほしい。

#### 自分ができること

- この訪問の体験で得たことを多くの人に伝える。
- 富山県での意識の高まり
- その高まりが全国に伝わっていきますように・・・

### まとめ①

- 国後島で生まれ、育ったロシア人がわずかではあるが、増加し始めている。
- そのロシア人にとっての故郷が国後島であるということ。
- 日本に返還された後、そのロシア人をどうしていくのか？

### まとめ②

- 北方四島現地のロシア人のほとんどは、「自分が決めることではない」と言っていた。
- 昔は堂々と日本には返還しないと言う人ばかりだったとのこと。
- 今回のホームビジットの家庭のうち、2つほどは「日本に返した方がいい」という方がいたとのこと。
- 交流事業によって、北方四島に対する日本の立場や、日本の文化などが現地に広まっている。